

Chapter 1

第1章

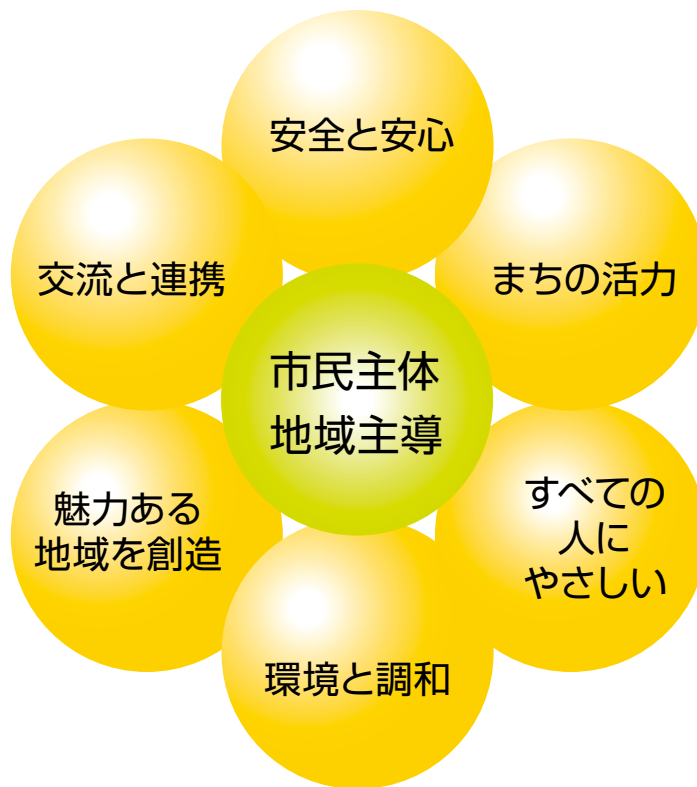
都市づくりの視点

第1章 都市づくりの視点

基本的視点

近年の社会状況は、本格的な少子高齢化の到来や経済の低成長、環境問題の深刻化、厳しい財政状況など、大きく変化しています。本市においても、少子高齢化、人口減少への対応、地域経済の活性化、豊かな自然環境の保全など様々な課題があります。

こうした中、多様化する地域の課題やニーズに対応した都市づくりを進めるため、次にあげる7つの視点を基本として都市づくりを進めていきます。



1 都市と地域間の交流・連携を推進する都市づくり

それぞれの地域が持つ個性を導きだし、地域間や広域的な都市間が相互に連携・交流することで、広域的な都市の活力が高められるような都市づくりを進めていくことが必要です。

2 安全と安心を高め広める都市づくり

東海地震の発生が予想される中で、地震や風水害などの自然災害の被害の軽減を目指し、都市の防災機能の向上や防災体制・治水対策の充実を図り、災害に強い安全・安心な都市づくりが必要です。

3 まちの活力を高める都市づくり

社会経済の変化の中でも、地域の魅力・個性を有効に活かすための基盤整備や、厳しい行財政運営の状況の下での投資効果を考慮した重点的な整備を行い、にぎわいにあふれた活力ある都市をつくる必要があります。

4 すべての人にやさしい都市づくり

だれもが暮らしやすい良好な居住環境を整えていくとともに、すべての人が社会参加の機会を持ち、支え合いながら生活することのできる都市づくりが必要です。

5 環境と調和した都市づくり

都市活動を適切にマネジメントし、地域社会と環境、経済が調和した持続可能な都市構造への転換が求められています。大井川をはじめとする水辺、里山の緑などの恵まれた自然環境を保全・活用することや、身近な暮らしの中の工夫などによって、環境負荷を低減し地球温暖化の防止に向けた取り組みを進めるために、環境と調和した都市づくりが必要です。

6 魅力ある地域を創造する都市づくり

成熟と持続の時代、交流化社会に的確に対応していくためには、自然、歴史、文化や産業などの地域の固有資源を再認識し、市民がこれらを共有していくことが大切です。そのためには、地域の資源を保全するだけでなく、市民の誇りになるよう洗練させることにより、魅力ある地域を創造する都市づくりが必要です。

7 市民主体・地域主導の都市づくり

市民と行政がそれぞれの特性に応じて責任と役割を分担しながら、相互の信頼と理解の上に共通の目的に向かい協働して都市を創り上げていくことが大切です。そのためには、さまざまな地域の課題を共有しつつ、自主性・自発性・自立性を尊重し、市民の柔軟な視点が都市づくりに反映されるような市民主体・地域主導の都市づくりが必要です。

